

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-210	14-061	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
<b>題名 (原題/訳)</b>		
Hypertension, alcohol drinking and stroke incidence: a population-based prospective cohort study among inner Mongolians in China. 高血圧・飲酒と脳卒中発症：中国内モンゴルでの集団ベース前向きコホート研究		
<b>執筆者</b>		
Tang L, Xu T, Li H, Zhang M, Wang A, Tong W, Xu T, Sun Y, Zhang Y.		
<b>掲載誌</b>		
J Hypertens. 2014 May;32(5):1091-6; discussion 1096. doi: 10.1097/HJH.0000000000000142		
<b>キーワード</b>		<b>PMID</b>
モンゴル、高血圧、飲酒、脳卒中、コホート研究		24577411
<b>要 旨</b>		
<b>目的</b> 本研究の目的は内モンゴル住民において、脳卒中発症に対する高血圧と飲酒の影響を評価し、飲酒が高血圧患者の脳卒中リスクを増加させるかどうかを検討することである。		
<b>方法</b> 内モンゴルの 20 歳以上の 2,535 人の住民が参加した前向きコホート(2006 年 6 月～2012 年 6 月)を用いて検討した。参加者は血圧と飲酒の程度で 4 グループに分けた。4 グループの脳卒中累積リスクは Kaplan-Meier 曲線とログランクテストで評価した。Cox 比例ハザードモデルと ROC 曲線が高血圧・飲酒と脳卒中発症の関連を評価するために用いられた。		
<b>結果</b> 観察期間中に 120 人の参加者が脳卒中を発症した。非高血圧かつ非飲酒者をいふぁれんすにすると非高血圧かつ飲酒者、高血圧かつ非飲酒者、高血圧かつ飲酒者の多変量調整ハザード比(95%信頼区間)はそれぞれ 1.03 (0.48～2.22)、2.64 (1.45～4.81)、2.89 (1.55～5.39) だった。従来から言われているリスクファクター(年齢、性、BMI、喫煙状況、心血管障害の家族歴、血糖値、血清脂質)に加えて高血圧と飲酒状況をモデルに加えた ROC 曲線下面積(R=0.684)は、従来から用いられているリスクファクターだけで算出した ROC 曲線下面積(AUC=0.660)と比べて有意に大きかった(P=0.005)。		
<b>結論</b> 内モンゴルの住民では、高血圧は脳卒中に対して独立したリスクファクターであることを示した。また高血圧の者が飲酒するとより脳卒中を発症し易くなると考えられた。脳卒中発症への飲酒と高血圧の累積リスクの評価にはより大規模な前向きコホート研究が必要である。		